企業情報と社会の制度転換 Ⅱ

企業と社会の制度転換研究班

研 究 双 書　第146冊

はしがき

制度とは国家や社会等を運営していく上で制定される法や規則、あるいはさらに広く、社会的に認められ定型化されている慣習等をいう。本研究は、このような諸制度と情報の関係を様々な角度から取りあげることを研究の目的として４年前に出発した。それは、社会制度が変化することによって情報がどのように変化したのか、あるいは逆に、情報が変化することによって社会制度がどのように変化したのかを、会計学や経営学の側面から多面的に考察することを試みた研究であった。更新を経て、今回の双書は二度目の成果である。

前回の２年目の成果と今回の成果を概観すると、各研究員の研究も進展・拡充した。

研究の中で、当研究班が重要と考えていたものの一つに環境問題と情報との関わりの研究があった。この研究として、先の双書では環境会計・実務をいくつかの論文が取り上げていたが、今回の双書では、一つの論文では企業と環境の問題を拡張し、大学と環境の問題に進化させている。また、前の双書でも取り上げられた、製造工程でのマテリアルロス（負の製品）を顕在化させ、資源生産性をより向上させるマネジメント情報を提供するマテリアル・フローコスト会計がさらに詳細に検討された成果も収録することができた。また、企業における環境問題の対応の実践例が観点を変えて検討されている。

前回の双書で検討されたIT技術を利用したｅ-コマースの検討はバイオメトリクス認証の研究へと発展した。現在、騙しや詐欺の問題が発生し問題となっているe-コマースの分野へバイオメトリクス認証の導入は重要な一つの論点となっている。また、前回のリスク情報の検討は、会計情報とコーポレートガバナンス（企業統治）に展開されている。

これらの研究は、研究所の研究班としては４年間の研究期間を満了すること

になった。その意味では、この双書は当研究班の最終の成果であるが、研究員は全員さらなるグループとしての研究を希望しており、相互に刺激を受けながら研究グループとして更に研究を進展させたいと考えている。

2007年 3 月

企業と社会の制度転換研究班
主幹　笹　倉　淳　史

目　　次

はしがき

Ⅰ　大学における環境活動と環境報告書

阪　　智香

1　環境問題と大学…… 1
2　大学における環境への取り組みの特徴…… 3
3　環境マネジメント活動…… 5
4　環境教育・研究…… 8
5　大学における環境への取り組みの事例……10
6　大学の環境報告書と環境会計……14
7　おわりに……24

Ⅱ　マテリアルフローコスト会計（MFCA）の新展開：
MFCAにおけるエネルギー分析への展開および既存の生産管理
（TPMを題材に）に対するMFCAの意義について

中嶌　道靖

1　マテリアルフローコスト会計の進展……27
2　マテリアルフローコスト会計におけるエネルギー分析……32
3　既存の生産管理に対するマテリアルフローコスト会計の意義……40
4　おわりに……49

Ⅲ　PCB廃棄物の広域処理計画と大阪処理事業の概要

今井　伸一

1　はじめに……55
2　PCB廃棄物の広域処理計画　……55
3　大阪PCB廃棄物処理施設の概要　……59
4　情報公開……64
5　PCB保管事業者との処理委託契約等　……64
6　おわりに……69

Ⅳ　企業における認証制度の現状、課題と展望

～パスワードからバイオメトリクスへの転換～

王　　耀鐘

序章……71
第１章　バイオメトリクス認証の登場……73
第２章　バイオメトリクス認証の特徴……81
第３章　バイオメトリクス認証の導入基準と運用方式……91
第４章　バイオメトリクスの利用分野　……101
第５章　終章～今後の課題と展望～　……110

Ⅴ　コーポレート・ガバナンスと会計 ― 経営者報酬と中心として ―

笹倉　淳史

はじめに　……117
1　コーポレート・ガバナンスと経営者報酬　……119
2　経営者報酬の現状 ― 1 ……120
3　経営者報酬の現状 ― 2 ……122
4　結びにかえて ― 経営者報酬の開示に向けて　……125